

## 特集「人工知能分野における博士論文 —博士論文に見る研究テーマの動向—」にあたって

山本 泰生  
(静岡大学)

小林 靖明  
(京都大学)

特集「人工知能分野における博士論文—博士論文に見る研究テーマの動向—」は、2000年から継続的に行われている毎年恒例の企画であり、今年で22回目を迎える。人工知能に関連する研究で博士号を取得した方々を対象に、博士論文の概要とプロフィール、抱負を掲載させていただいている。その目的は、博士論文としてまとめられた研究成果を普及することと読者の皆様に最新の研究動向を知るきっかけをつくることにある。また、博士号取得直後の人工知能研究者を紹介することで研究者間の交流が促進されればと考えている。

本特集は、前年度10月から当年度9月までの1年間に博士号(課程博士、論文博士)を取得された方を対象として募集している。今年は2019年10月から2020年9月の期間に取得された方を対象とし、学会誌とJSAI、DBSJのメーリングリストを通して応募の告知を行った。また、人工知能学会編集委員の皆様にも情報提供を呼びかけ、結果として23件の応募をいただいた。表1に過去の12年間の投稿件数の推移を示す。2010年から2021年までの平均投稿件数は20.4であり、今年はその平均並みの水準といえる。他方、2016年以降少しずつ投稿件数が増加している傾向が見られる。応募いただいた方々ならびに応募にご協力いただきました関係者の先生にはこの場を借りて深くお礼を申し上げる。

本特集では、応募の際に応募者自身に、本学会論文誌の分野一覧\*1の大分類項目と小分類項目の中から当該分野の一つを選択していただいている。内訳だが、今年はヒューマンインタフェースとAI応用がそれぞれ4件と最も多かった。次いで、基礎・理論が3件、機械学習、知識の利用と共有、Webインテリジェンス、エージェント、言語メディア処理ならびに画像音声メディア処理が各2件となっている。AIと社会は今年度新設された大分類であり該当する投稿はなかった。ロボットと実世界は2014年から投稿がない状況が続いている。

博士取得が研究者の出発点とすれば、本特集は2000年以降の人工知能に関わる研究者の初期情報を探る手掛かりの一つといえる。他方、本特集に応募できるチャンスは一度きりで、該当する期間を逃すと自身の博士論文記事を掲載できなくなる。今年博士号を取得予定の皆様にはぜひこの点ご留意いただき、来年度ご応募いただきたい。博士学生を指導する教員の皆様方にも、研究の成果を広くアピールできる場として、学位を取得する学生さんに本特集への投稿をお勧めいただけると幸いである。

最後に、今年で22年を迎えたが、今後継続して多くの博士論文を紹介するため、さまざまな方面から工夫を行う必要があると感じている。会員の皆様には、何卒お力添えをいただきたく、お願い申し上げます次第である。

表1 分野別投稿件数の推移

分野	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	平均
基礎・理論	2	1	2	2	1	0	1	0	2	0	1	3	1.3
機械学習	5	2	1	12	5	2	1	1	2	3	5	2	3.4
知識の利用と共有	0	1	3	1	0	4	0	3	2	0	2	2	1.5
Webインテリジェンス	5	3	0	5	2	4	0	1	2	0	1	2	2.1
エージェント	2	1	2	2	0	2	3	1	0	3	1	2	1.6
言語メディア処理	4	9	5	4	5	5	0	2	1	5	1	2	3.6
画像音声メディア処理	0	2	3	2	4	8	0	1	0	1	1	2	2.0
ロボットと実世界	1	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8
ヒューマンインタフェース	8	6	4	3	2	3	3	0	2	0	1	4	3.0
AI応用	0	2	3	0	0	0	0	3	1	0	2	4	1.3
AIと社会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
合計	27	29	26	34	19	28	8	12	12	12	15	23	20.4

\*1 分野一覧の分類項目の改定に伴い、過去の一部の掲載論文を再分類している。よって、分野別の投稿件数には厳密な意味での連続性はない。過去の分野一覧における投稿件数は前回(Vol. 35, No. 1, p. 79)の特集にあたってをご参照いただきたい。